

NPO 法人

全日本語りネットワーク

〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3

国分寺マンション B-03A

(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808

(E-mail) welcome@japankatarinet.jp

(HP) http://japankatarinet.jp/

2020. 1. 25 発行

ニュース

語りの会を始める前に ぼくの場合

杉山亮 (山梨県北杜市)

語りの会の会場に着いたら、なにはともあれ部屋の下見をさせてもらう。

まずは広さの確認。学校なら体育館はなるべく避けたい。どうしても話の熱気が伝わりにくい。一応「もっと狭い部屋にかえられますか?」と訊く。空き教室を使える場合もあって、すると近い距離で肉声でできる。

とはいえ「ほかに全員が入れる所がありません。」と言われたら、もちろん体育館です。最善の環境ではないが、やらないよりは絶対やったほうがいい。素話を聞く機会は貴重だ。

次は音。体育館なら当然マイクがいるが、ほどほどの広さの部屋でマイクを使ったほうがいいのか肉声でもいけるか迷った時は保険の意味でマイクを用意してもらう。聞く側にとって聞こえにくいのは致命的なストレスだから「なにがなんでも肉声がいい」という美意識と心中する気はない。

もちろん発声して音質音量をためし、一番いいマイクを選ばせてもらう。

次は照明。語りが始まったら聞き手は語り手を見るしかないから、はっきり見えたほうがいい。とくに語り手の周辺だけスポットで明るくできると聞き手も意識を集中しやすいし非日常の空間を楽しめる。

明かりが真上にある場合は語り手が前に出すぎると光を後ろから浴びて頭が陰になるからスタッフに見てもらって自分の位置を決める。

照明が調節できる会場なら、おぼけ話を入れることもできる。

次は暑さ寒さ。暑すぎても寒すぎても聞き手が話を楽しめなくなるから、これは会場側にエアコンやストーブの調節をお願いするしかない。早めにしないと開演時間までに適温にならないこともある。

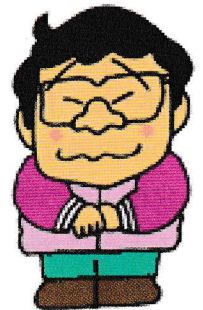
子どもたちが床にペタンとすわるなら手のひらを床にあてて冷たさや硬さを確認する。そういう姿勢を見せることで主催者側も気配りするようになるし、学校なら教室から座布団や椅子を持参することも考えてくれる。

横のカーテンは基本的にしめてもらう。劇場も寄席も窓がないのは景色が変わらないことでステージに集中しやすくするためだ。

最後に壁の時計の位置を確認する。時間の把握は常に重要だが(学校ならチャイムが鳴る前に話を終えたい)昔話をするとき腕時計ははずしていたいから。ただ話の途中で壁の時計を見る所を聞き手に気づかれてはダメ。ものがたりの魔法がとけて、聞き手が現実に戻ってしまう。だからさりげなく時計を見るために先に位置を知っておく。

すぐにしゃべれる話を長短いくつか持っていて最後の話は残りの時間によって選ぶ。

これで下見は終了。それからやっと控室に入って本番にそなえる。



イラストは、Web サイト「なぞなぞ工房ON THE WEB」より